



令和8年度当初 チャレンジみらい予算

提案結果

令和8年3月 職員課・総合政策課・財政課

INDEX

1. 制度の概要
2. 提案結果
 - ・ 件数、人数
 - ・ 事業内容
 - ・ チーム提案プレゼン資料
3. 提案へのサポート
4. 提案者の声
 - ・ アンケート結果

1. 制度の概要

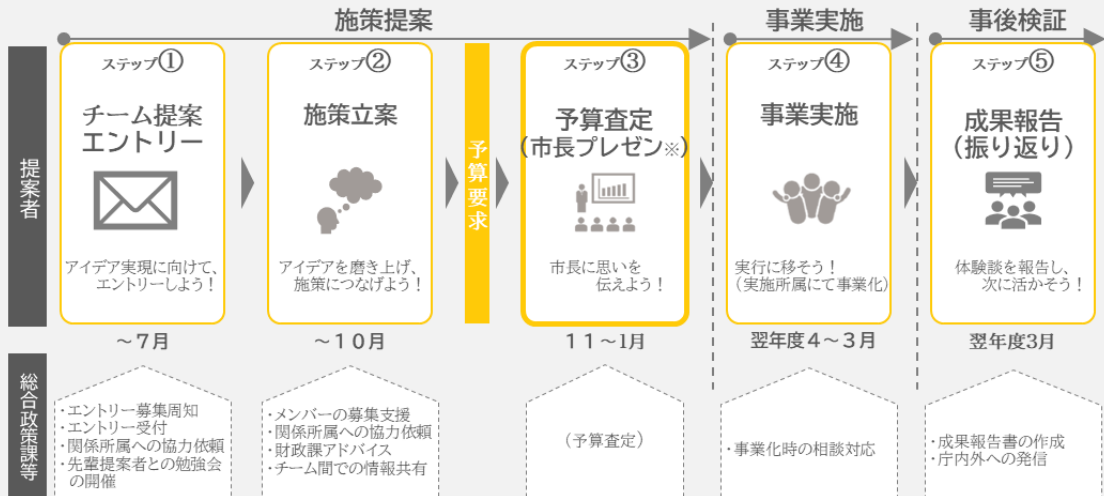
若手職員がチャレンジできる場を創出し政策形成能力の向上を図るとともに、柔軟なアイデアに基づく事業の実施により、市民生活向上や地域活性化を目指す取り組みです。

ポイント

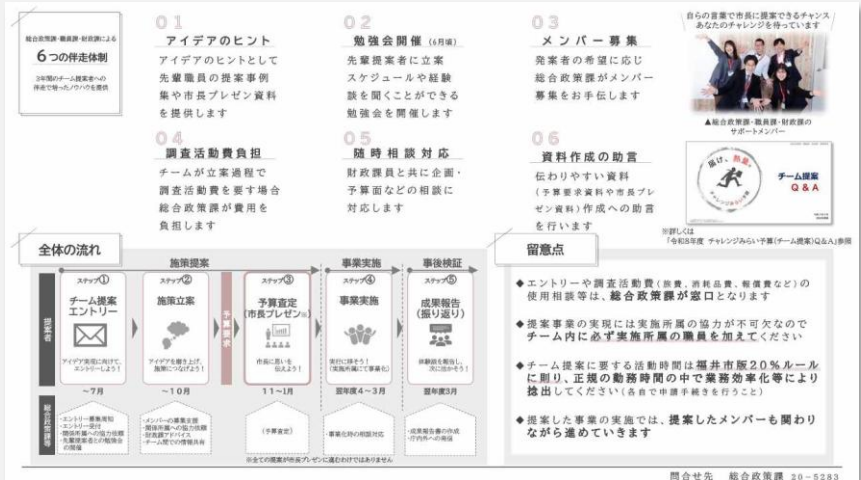
- ✓ 提案対象者は、主に副主幹以下の職員
- ✓ 予算要求に向け、財政課・職員課・総合政策課の3課が連携し伴走支援
- ✓ 事業経費は、シーリング対象外
- ✓ 査定では、提案者自らが説明を実施
- ✓ 立案に係る調査活動費（先進地視察等）を支援 **NEW!!**
- ✓ 実績を踏まえて改善を行うなど、継続的にチャレンジする事業も提案可 **NEW!!**

※令和7年度チャレンジみらい予算採択事業について

制度の流れ



募集チラシ



2. 提案結果 | 件数、人数

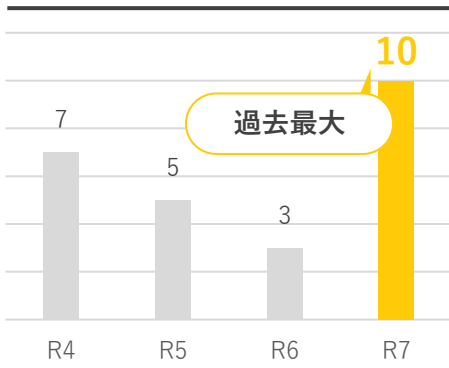
過去最大となる10チームからのエントリーがあり、昨年を上回る15件の事業化につなぐりました。

エントリー

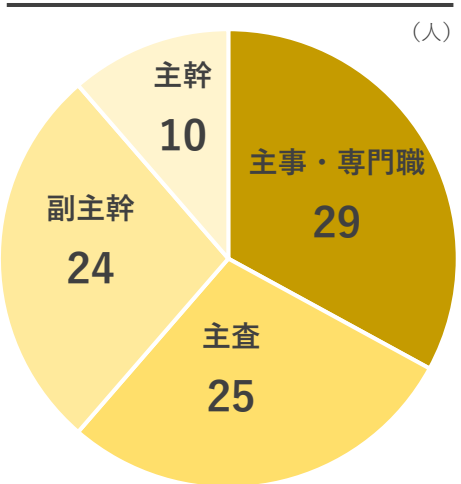
25件 / 88人
(19) (80)

個人 : 15件 / 31人
チーム : 10件 / 57人

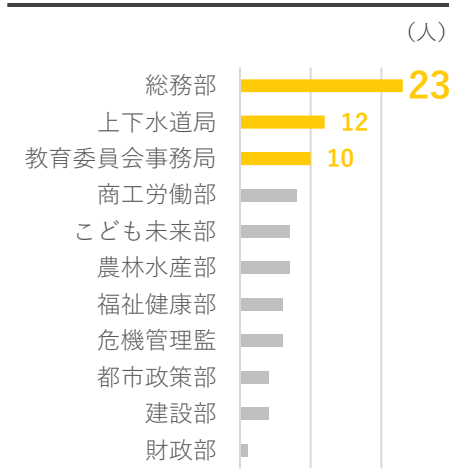
チーム数



補職



部局別



予算要求

※括弧内の数字は昨年度実績 ※上下水道局の事業含む

24件 / 81人
(19) (79)

個人 : 15件 / 31人
チーム : 9件 / 50人



事業化

15件 / 60人
(13) (54)

個人 : 7件 / 14人
チーム : 8件 / 46人

事業費総額

24,072千円
(23,806)

2. 提案結果 | 事業内容（個人提案）

市民参加型の福井の魅力発信事業など、若手職員ならではの柔軟な発想から生まれた7件の事業化につながりました。

7件 / 5,664千円

事業名	所属	事業費(千円)	内容
まちじゅう参加「エキナカ福いいネ！」事業	広報プロモーション課	500	市民がSNS投稿する地域の魅力を駅ビジョンに表示し、市民参加型で福井の魅力発信を広げる
越前海岸ナゾトキ周遊事業	観光振興課	1,000	越前海岸沿いの「エモい」資源を生かしながら、若者世代や地域と連携した謎解きを展開し、滞在時間延長と地域消費拡大につなげる
たのしみはプロジェクト ～黒板が繋ぐたのしみ輪～	文化振興課	350	市民が自由に「自分自身の『たのしみは』」を書ける黒板を設置し、本市出身の歴史的偉人である橘曙覧の顕彰活動を行いながら、郷土愛を育む場づくりを行う
それいけ！多様な担い手激推し品目推進事業	園芸センター	2,600	省力化・高収益の「激推し」品目を支援し、練習園地整備などを通じて多様な農業参入者を育成する体制を整える
くるくるストック！トイレの安心備蓄	危機管理課	—	学校などのトイレットペーパーを日常使用しながら備蓄を兼ねる方式へ切替え、災害時にも備える仕組みを整える
本との出会い創出事業	みどり図書館	409	表紙を見せる特設ボードとタブレットを導入し、魅せる展示や映える発信、講座で新たな本との出会いを創出する
マンホールふた広告事業	経営管理課	805	マンホールふたを広告媒体として活用し、下水道事業の新たな財源を確保して事業の持続性を高める取組を進める

2. 提案結果 | 事業内容（チーム提案）

持続可能な自治会モデルを検討・提案する事業など、所属や部局の垣根を越え横断的に取り組む8件の事業化につながりました。

8件 / 18,408千円

事業名	所属	事業費(千円)	内容
未来へつなぐ地域の絆： 持続可能な自治会モデル検討プロジェクト	地域振興課	600	若者などでチームを結成し、ワークショップを通じて持続可能な自治会モデルを検討・提案する
福井市版終活支援プロジェクト ※2年目継続事業	地域包括ケア推進課	702	終活に関する出前講座の開催や普及啓発に取り組むとともに、関係者との意見交換を通して、効果的な終活支援について検討する
あそびにおいでよ！ 地域子育て支援センター・児童館	こども政策課	2,644	地域子育て支援センターの遊具や児童館のイベントを充実させ、子育て家庭が気軽に訪れ遊べる居場所としての魅力と認知度を高める
学生×企業リンクプロジェクト ～スタートアップと共創したUIターン創出事業～	商工労政課	9,340	企業の社会課題と学生のアイデアを結びつけ、交流を創出することで将来のUIターンにつながる関係づくりを進める
FUKUI WINDSHIP PROJECT ーブローウィンズを活用した関係人口創出ー	スポーツ課	1,500	若年層コミュニティ「ブローウィンズ応援部」を立ち上げ、インナー・アウトタープROMーションを展開し、地元プロスポーツチームをきっかけとする関係人口の創出、市民の応援機運醸成につなげる
発掘！次世代ハンター！！ちびっと狩猟体験	林業水産課	189	狩猟やジビエに触れる体験機会を提供し、多くの世代の興味を育むことで将来の担い手確保につながる取組を行う
乗って元気！かぶって安心！！ 公共交通と自転車	自転車利用推進課	253	公共交通の乗車体験や「ふくチャリ」のヘルメット貸出環境整備を通じ、市民の公共交通・自転車利用を促進する
オンライン受付で業務効率化！ 上下水道DX推進事業	下水管路課	3,180	埋設立会受付のオンライン化や上下水道GISの公開を進め、事業者の利便性向上と職員の業務効率化を図る

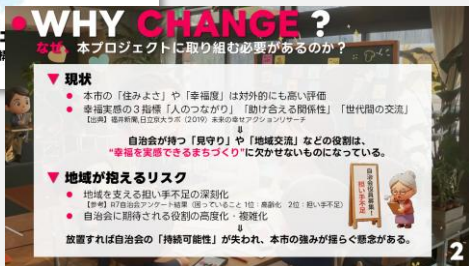
2. 提案結果 | チーム提案プレゼン資料（一部抜粋）

各チーム内で話し合い、写真やイラスト等を活用した伝わりやすい資料作成を行いました。

未来へつなぐ地域の絆： 持続可能な自治会モデル検討プロジェクト



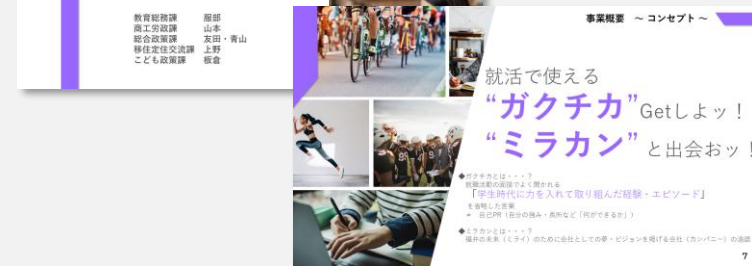
未来へつなぐ地域の絆
持続可能な自治会モデル検討プロジェクト
次世代が「遊び・参加できる」地域コミュニティの再構築
地域振興課 朝日啓太 総合政策課 梅田佳孝



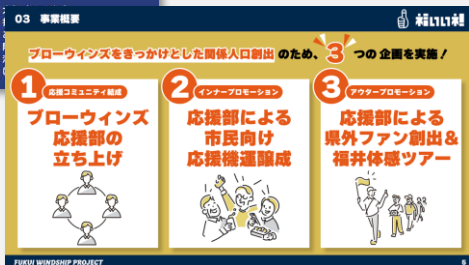
あそびにおいでよ！ 地域子育て支援センター・児童館



学生×企業リンクプロジェクト ～スタートアップと共創したUIターン創出事業～



FUKUI WINDSHIP PROJECT ーブローウィングスを活用した関係人口創出ー



発掘！次世代ハンター！！ちびっと狩猟体験



乗って元気！かぶって安心！！公共交通と自転車



3. 提案へのサポート

一人でも多くの若手職員が本事業を積極的に活用できるよう、様々な機会を捉えて呼びかけを行うとともに、提案事業の精度を高めるため、財政課・職員課・総合政策課の3課が連携をして提案者の支援を行いました。

5月

- Q&A集やチラシに前年度の提案経験談を掲載する等、チャレンジを後押しする資料を用いて募集開始
- 職員向けのポータルサイトや庁舎内の掲示板にも掲載し呼びかけを実施

6月

- 過去に提案経験のある職員を招き、「先輩提案者との勉強会※」を対面とオンラインのハイブリットで開催
※後半では、座談会形式で意見交換も実施

随時

- 提案者からの相談に対し伴走支援を実施（財政課・職員課・総合政策課）
- 立案に係る調査活動費（先進地視察等）を支援

1月

- 提案者のプレゼン力向上のため、市長プレゼンのリハーサル会を実施
- 市長へのプレゼン実施

3月

- 提案結果をまとめた報告書を作成し、庁内に発信

募集チラシ・Q&A集



ポータルサイト掲載イメージ



先輩提案者との勉強会



リハーサル会



提案結果報告書



4. 提案者の声 | アンケート結果（一部抜粋）

提案者からは制度や取組内容に高い評価をいただいております、アンケートでの意見を基に今後も事業のさらなる充実に向け検討していきます。

チャレンジみらい予算（チーム提案）にチャレンジして良かったですか？

3年連続！ 回答者全員が「良かった」と回答

100%
チャレンジして
良かった

- ・ 施策立案の内容の自由度が高いこの制度は継続してほしい。
- ・ 所属や年代を越えた取組を実施できたことは、職員人生においての糧になったと思う。
- ・ 自身のチームだけでなく、他チームの資料づくりやプレゼンに触れることができ、スキルアップしたいと思える良い刺激を得た。
- ・ 意見を出し合い一つの提案をかたちにしていく過程は、自身の視野を広げる良い機会となりチャレンジして良かったと感じる。
- ・ 関係者との調整や、関わる職員間での役割や関与の度合いを整理することに難しさを感じる場面もあったが、普段の業務では意識しにくい調整や進め方を考える経験となった。
- ・ 通常業務では経験できないスキルの向上につながったり、新たな関係者との繋がりができる等、幅広いスキルが求められる地方公務員として、有意義な経験をさせてもらえた。

アンケート概要

- 目的：提案者の声をふまえて次回に向けた改善を検討
- 対象：チーム提案エントリー者（回答23名）
- 時期：1月16日～1月23日
- 方法：電子申請サービス「ふくeねっと」

市長へのプレゼンを経験してどうでしたか？



- ・ 良い緊張感の中で行うことができた。市政の決定権者に直接プレゼンして事業が進むので、自分も市政に携わっていることの実感がもてた。
- ・ 講評をいただけることはエールになる。市長の考える市政という観点からの質問や助言をひとことでもいただけると今後の取組に活かすことができ、よりいっそう成長につながる。
- ・ プレゼンに向けて準備も含めて良い経験になった。また、提案に対する市長や副市長の意見や考えを直接聞かせていただけたので、福井市独自の事業を作り上げることにやりがいを感じることもできた。
- ・ 自分に不足しているものがよくわかった。もう少し若い時（主査）に経験できるとさらにいい経験になると思った。
- ・ プレゼンでは、「なぜ今やるのか」「市としてやる意味は何か」といった視点で説明する必要性を強く感じ、普段の業務ではあまり意識することのない視点で考える機会となり、政策を考える上での視野が広がった。
- ・ 市長へ直接プレゼンをすることで、事業の本質的な思いを伝えることは大切な機会だと思う。